

船後議員の発言 国内外から注目集中

難病と生きる姿 伝える

船後は、ALSのある国会議員として、憲政史上初、世界でも極めて異例の存在となった。市民やメディアから寄せられる関心は、国内に留まらず、海外からも高まっている。

昨年7月の当選、8月の初登院、11月の初質疑の際は、数十社ものメディアがカメラを向け、取材。全国紙や全国放送で相次いで紹介された。その後も、新型コロナウイルスに伴う「オンライン国会の提言」や、京都府で発生した医師による嘱託殺人事件などでも、当事者ならではの視点で意見表明し、唯一無二の

存在であることを裏付けた。

海外からの注目度も高い。新型コロナウイルスにより、「生産性」のもと、障害者や高齢者が「命の選別」にさらされるという危機感を表明したところ、スイスの劇場に所属する芸術監督から、ドキュメンタリー映像への出演依頼

を受けた。また、シンガポールに拠点を置くテレビ局からも、出演依頼を受け、このほど公開された。

取材などに積極的に応じる理由がある。それは「必要な合理的配慮があれば、私のように、声を出せない全身麻痺の難病患者も、志をもつて活動できる」という姿を多くの人に知ってもらうことができるからだ。残念ながら、今の日本では、障害のある人と接する機

会が多いとは言えない。そうしたなか、船後は自らを「広告塔」として、障害とともに生きる姿を知りきっかけにしようと試みているのだ。

現在、主な活動報告は、ツイッター（フォロワー約2万人）▽フェイスブック（同約1400人）▽公式ホームページ（今年7月の閲覧件数は41万件）などで行っている。また、後援会の会員限定で発行している、この機関紙「FunaGo!新聞」でも、毎月1回、独自の視点で船後の日々を伝えていく。

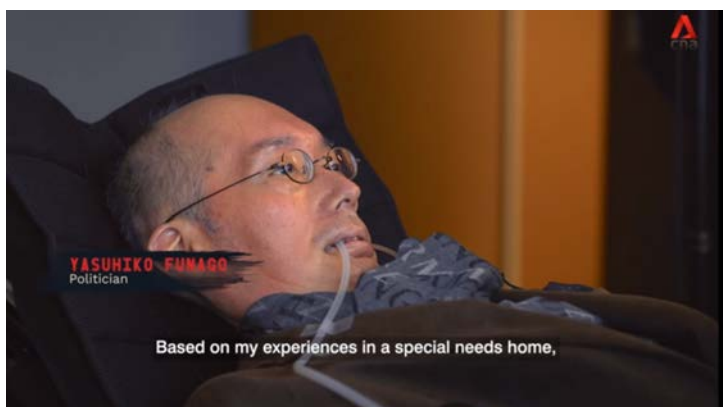
左のQRコードからぜひ、ホームページを参照していただきたい。



HPのQRコード



新聞各紙に相次いで取り上げられた



海外のドキュメンタリー作品にも出演

★任期1年目の主な活動実績

- ◆質問主意書
新型コロナ関連と、介護の質の担保に関する質問主意書を計2件提出した。
- ◆文教科学委員会質疑
質問回数は計12回。法案や予算案の他、インクルーシブ教育やコロナ対策など幅広いテーマで大臣に質問をぶつめた
- ◆要望書提出
災害対応▽インクルーシブ教育▽コロナ対策——について、国に直接申し入れる要望を10件以上実施した。
- ◆視察・集会
市民の方々に関心をもってもらうため、国会内で開く「院内集会」について計3回、企画に携わった

船後靖彦後援会

「チームふなGO!」

会員募集中!!

船後靖彦後援会「チームふなGO!」では、ご入会者に月刊の機関紙などの特典をご用意しております。ぜひご入会をよろしくお願い致します。会費は年会費5000円です。

TEL:03(6550)0302 FAX:03(6551)0302
mail:yasuhiko_funago@sangiin.go.jp